


ポプラ社 × 東京大学
共同研究プロジェクト
「子どもと絵本・本
に関する研究」

「子どもと絵本・本に関する研究」 指定討論

秋田喜代美（学習院大学）

本日のご発表

- エコシステムアプローチにより、
- 子どもをとりまく様々なレイヤーから子どもと本の関わりを捉える。具体的なエビデンス

佐藤報告：子ども・親・家庭

高橋報告：園・図書館・地域社会

1 高橋報告から考える

- 絵本・本環境の保障と拡充のために、地域においてディア環境のコーディネートが大切という視点。
- 全ての子どもに 園間の差異、幼保と小学校以上の差異を埋める。特別支援、病院、外国籍
- 公共図書館のはたす役割の確認
- 政策的提言 地域の絵本本のエコシステムのデザイン

子どもの読書環境構成のデザイン原理(秋田、2020)

子どもの読書環境構成のデザイン原理

Design principles for processes

1冊の絵本・本の中で

- 1.共同注視
- 2.聴きあう
- 3.夢中

Design principles across time

繰り返しの経験の中で

- 1.忘れられない経験
- 2.良質な作品との出会い
- 3.主体的選択

Design principles beyond centers and libraries

園・学校図書館の空間を超えて

- 1.読む・表す・関わるなど真正な本をめぐる活動への参加
- 2.柔軟な流通・交流
- 3.人がつながりあう

Design principles for participation

皆で活動へ参画

- 1.誰もが笑顔で巻き込み力を生む
- 2.共同主体性
- 3.居心地

幼児期から始まる学校教育 しかし学校にはあって園にはない 図書標準、予算、専門家

https://www.mext.go.jp/content/20220125-mxt_chisui01000020025-01.pdf

概要資料 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」



[令和4年度～令和8年度]

計画の内容 令和4年度→令和8年度

令和4年度からの5年間で、全ての小中学校等において学校図書館図書標準の達成を目指すとともに、図書の更新、新聞の複数紙配備および学校司書の配置拡充を図ります。

単年度総額 480 億円 / 5か年総額 2,400 億円

各学校における学校図書館図書標準※達成を目指すための新たな図書の整備に加え、児童生徒が正しい情報に触れる環境整備等の観点から、図書の廃棄・更新を進めるための選定基準・廃棄基準を策定し、古くなった本を新しく買い替えることを促進します。

単年度 199 億円 / 総額 995 億円
(不足冊数分) 単年度 39 億円 / 総額 195 億円 (更新冊数分) 単年度 160 億円 / 総額 800 億円

本計画の目標 学校図書館図書標準 100%達成
計画的な図書の更新を実施

学校図書館図書の整備

選挙権年齢の18歳以上への引下げや、成年年齢の18歳への引下げに伴い、児童生徒が主体的に主権者として必要な資質・能力を身につけることの重要性に鑑み、発達段階に応じた学校図書館への新聞の複数紙配備を図ります。

単年度 38 億円 / 総額 190 億円

本計画の目標 小学校等 2紙、中学校等 3紙、高等学校等 5紙

学校図書館への新聞配備

学校図書館の日常の運営・管理や、学校図書館を活用した教育活動の支援等を行う、専門的な知識・技能を持った学校司書のさらなる配置拡充を図ります。

単年度 243 億円 / 総額 1,215 億円

本計画の目標 小・中学校等のおおむね 1.3 校に 1 名配置
(将来的には 1 校に 1 人の配置を目指す)

学校司書の配置



保幼小の架け橋
連携で幼児期にも豊かな本を介した連携交流を

横串としてのネットワーク 人、もの、財源 体制組織

- 家庭からの絵本のリサイクル、ボランティア
- 園間の連携、地域の方々との連携
- 自治体における子供の読書推進計画や会議へのマルチステークホルダーの参画

誰が子どもの絵本・本環境に関わるのか？それはなぜか？

「自治体に求める、自治体から言われたらかやる」だけではなく、市民一人一人が自分が参画してできることは何かを考える。

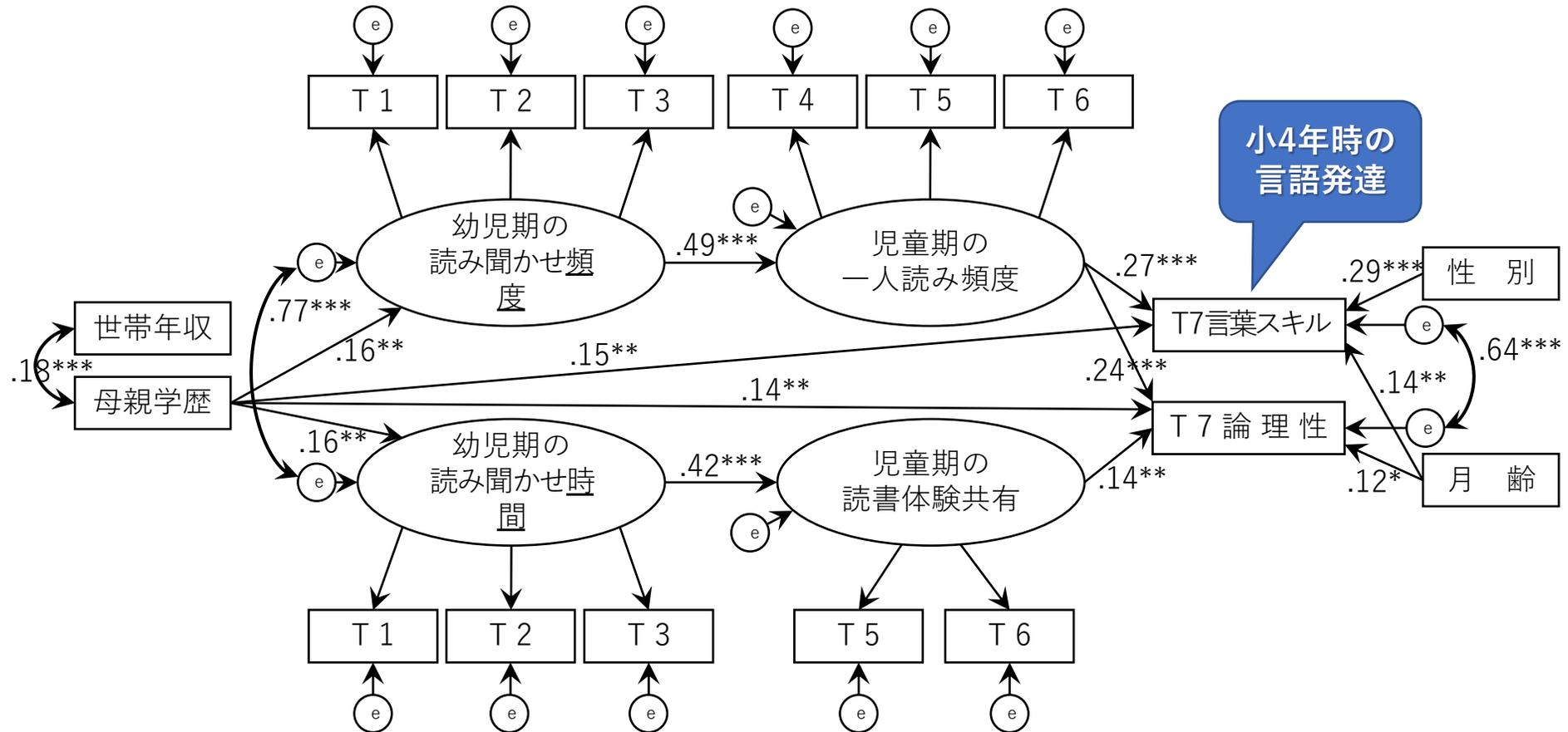
子どものwellbeing、子どもの絵本との出会いにおける笑顔が大人も笑顔にしていく。喜びの読書には上下関係はない。そのことが地域のまちづくりにもつながっていく



2 佐藤報告から考える (家庭、紙とデジタル)

- 「家庭の読み聞かせ頻度や蔵書数に格差がある」
平均37.1冊という数値が持つ意味
- 保護者の紙選好は強いこと
- 読書のみが非認知能力とリテラシーの両方に影響
- 紙の絵本とデジタル絵本の比較

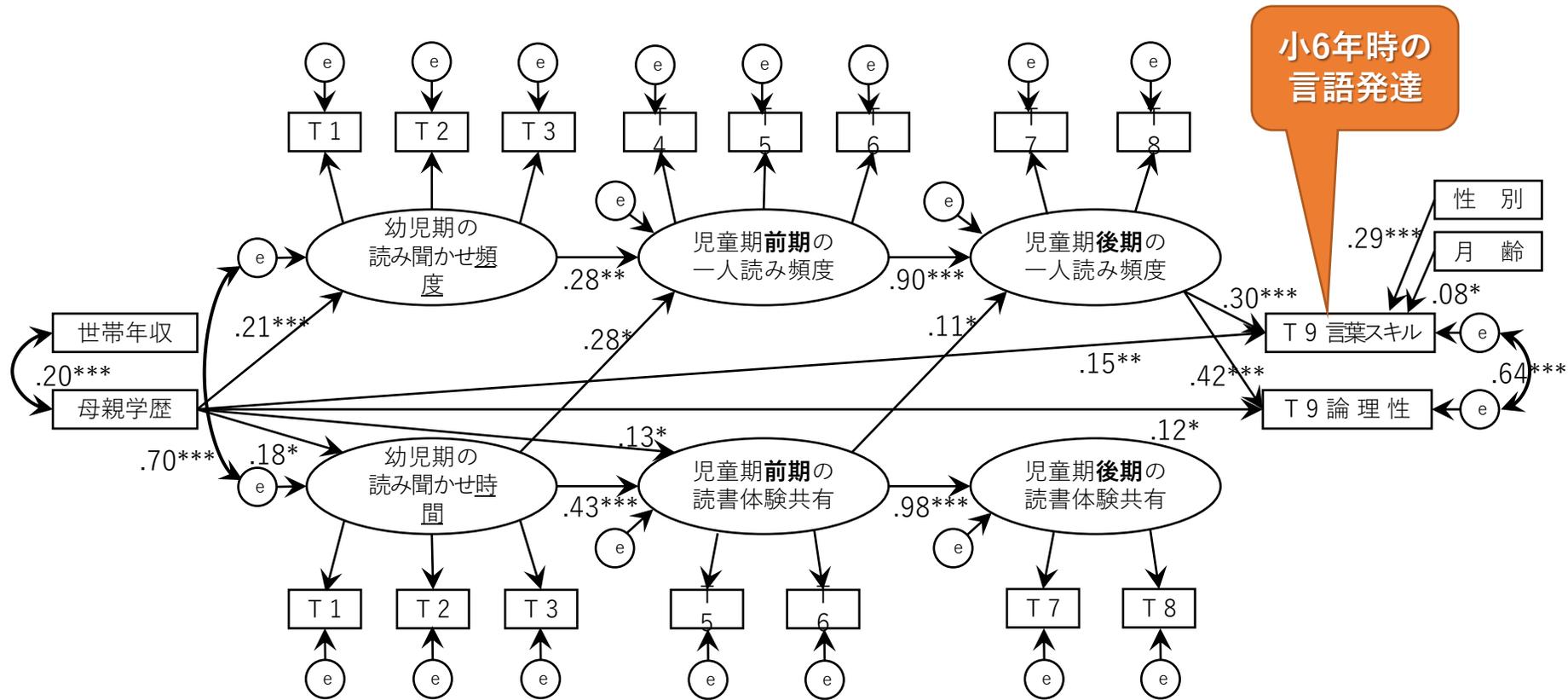
読み聞かせ頻度 幼児期の頻度は小学校中学年の一人読みにも影響 (荒牧・高岡・秋田・無藤、2019発心大会)



小4年時の言語発達

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ CFI=.940 TLI=.917 RMSEA=.053 90% CI for the RMSEA .044-.063

読み聞かせ頻度 幼児期の頻度は小学校t高学年の一人読み頻度にも影響 (荒牧・高岡・秋田・無藤、2022発心大会)



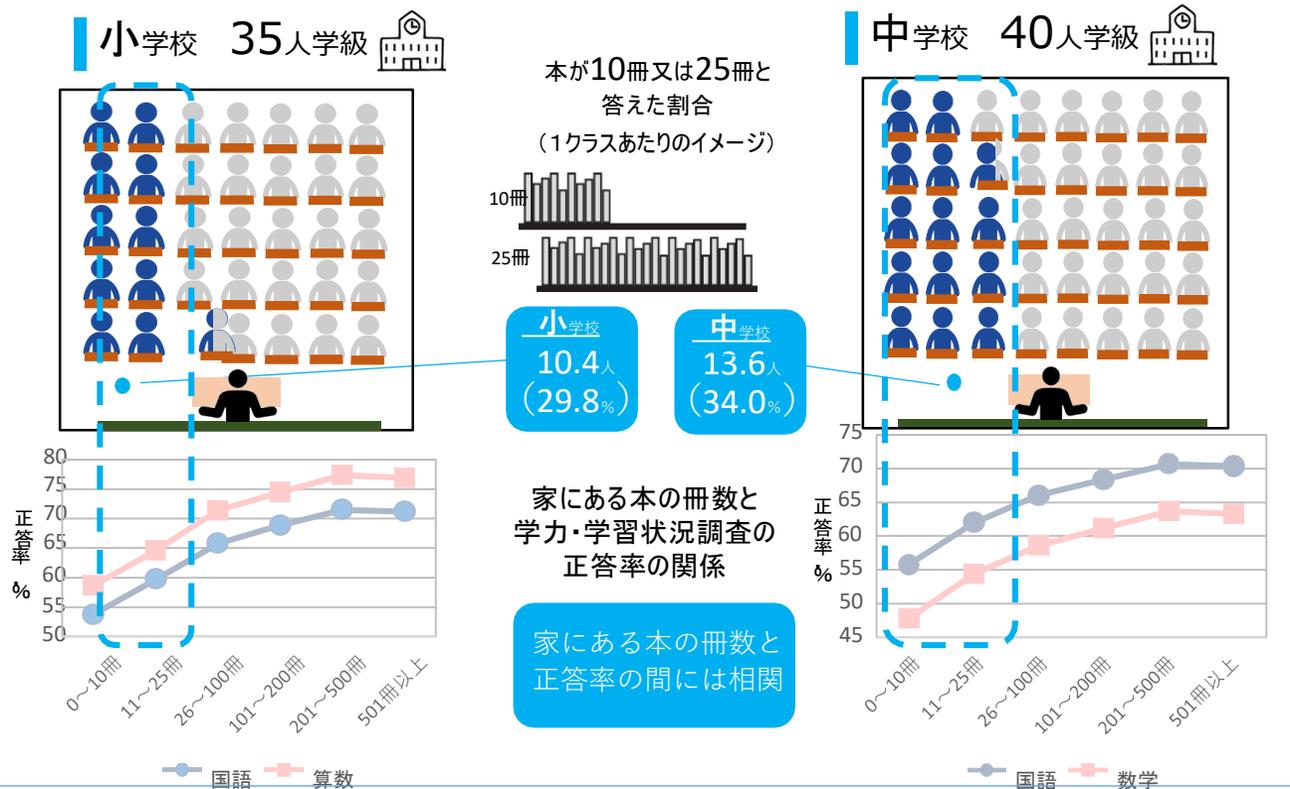
小6年時の言語発達

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ CFI=.963 TLI=.952 RMSEA=.040 90% CI for the RMSEA .031-.049

小中学生 家庭の本の格差 021年9月発表の学力調査結果から 内閣府教育人材WG第2回資料より

家庭環境：家にある本（雑誌、新聞、教科書を除く）の冊数

小中学生の30%以上は家庭にある本の数は25冊以下。



【出典】令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙結果より内閣府において作成。全国平均値等を1クラスに仮に見立てた場合のイメージ図。実際には偏在等は生じている可能性が有る旨留意。
児童生徒質問紙内容：あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。

保護者の紙選好の強さ 英国の調査でも同様の結果 (2016)

The digital reading habits of children.



A National survey of parents' perceptions of and practices in relation to children's reading for pleasure with print and digital books.

Natalia Kucirkova and Karen Littleton

February 2016



Supported using public funding by
ARTS COUNCIL



BookTrust

- 英国 0－8歳の保護者1511名
- 子どもに本を読むのには、紙の本を読むことを選好する。
- 保護者がデジタルリテラシーが高い家においても0－8歳の子供には電子書籍よりも紙の本を読むとしている。

https://www.booktrust.org.uk/globalassets/resources/research/digital_reading_survey-final-report-8.2.16.pdf

中学高校生 紙とデジタル 国によって異なる (PISA,2018)

PISA 2018

最近では、紙の本を読む読書だけでなく、デジタルデバイスを利用して読書を行う高校生が増えつつある。PISA2018 調査の結果によると、「本は紙で読むことの方が多い」と回答した生徒の割合は日本が46%、OECD平均が37%、「本はデジタル機器で読むことの方が多い（例：電子ブックリーダー、タブレット、スマートフォン、コンピュータ）」は、日本13%、OECD平均15%、「本は、紙でもデジタル機器でも同じくらい読む」は日本16%、OECD平均13%である（OECD, 2018）³⁾。なお、同調査によると、香港と台湾では「本はデジタル機器で読むことの方が多い」と回答した生徒の割合がそれぞれ4割を超えている。これからの数年で、デジタル読書を行う日本の

日本財団（2020）

- 17-19歳 1000名
- 「紙」が67.6%で、「電子書籍」（5.9%）より圧倒的に多い。「どちらも活用している」は26.4%。
- https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2020/10/wha_prio_eig_152.pdf

紙絵本か電子絵本か 関わる多様な要因

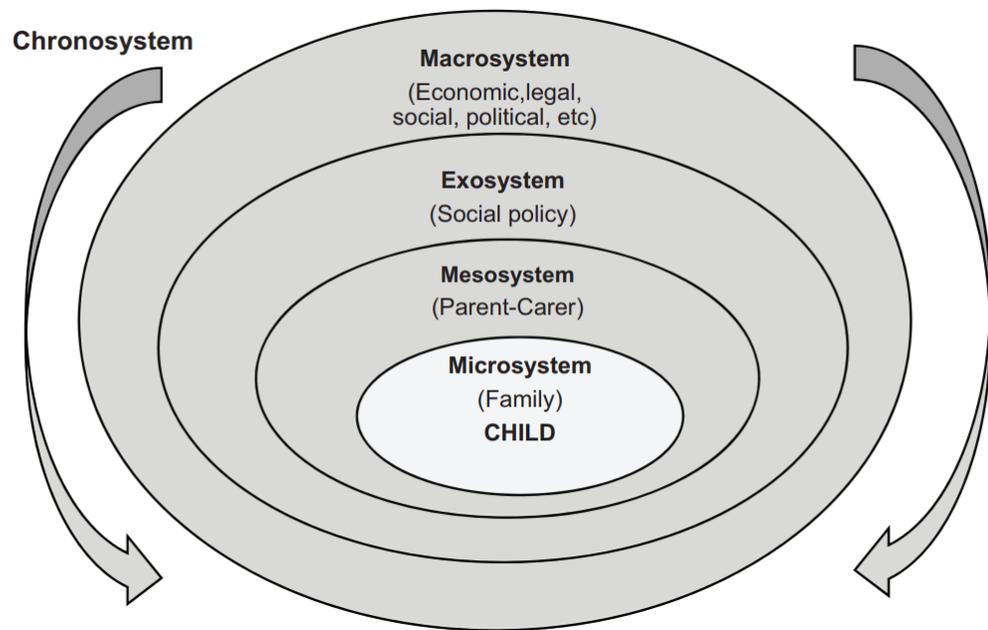
(Furenes, Kueirkova, & Bus, 2021) A comparison of Childrennal Research, 91(4) 483-517.

○紙の絵本とデジタル絵本 幼児に関する39の研究 1812名の子どもたちの研究のメタ分析

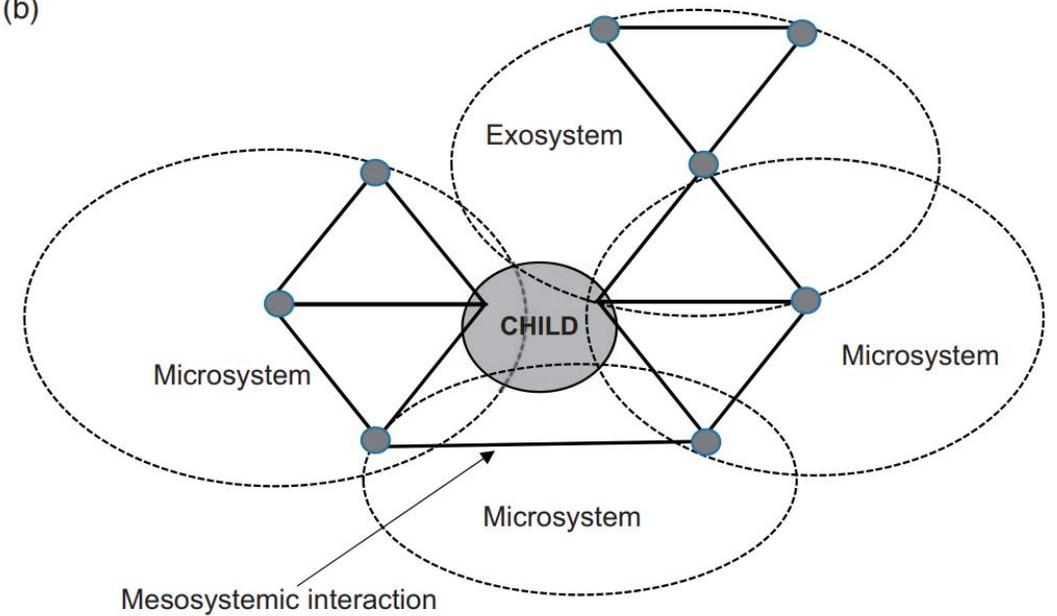
同じ内容であれば差はなく、紙の方が理解が深まる一方で、子どもの語彙獲得には電子絵本や有効だが意味を理解する点ではそのようなことはない。辞書機能などはむしろ邪魔することもある。ただし電子書籍の画面デザインの影響、お話の語り方の質、大人の支援の在り方などによって影響を受ける。また特別な支援を有する子どもたちにはデザインによっては有効でもある。

3 エコシステムと紙か電子の発想を問い直す 子どもの活動の視点にたった議論ではないと いう見解もある。 Flewit & Clark 2020

(a)



(b)



Lowテク家庭のペトラ Highテク家庭チャーリー

Porous boundaries: Reconceptualising the home literacy environment as a digitally networked space for 0–3 year olds, *Journal of Early Childhood Literacy* 2020, Vol. 20(3) 447–471

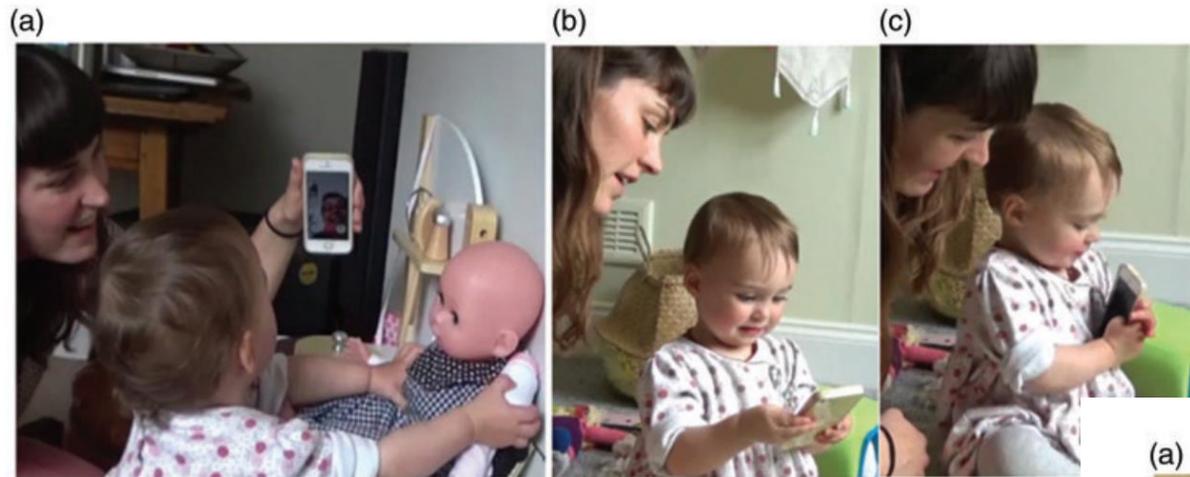


Figure 2. Petra plays remotely with her grandmother (a), waits for her aunt to answer the phone (b) and cuddles the phone/her cousin (c).

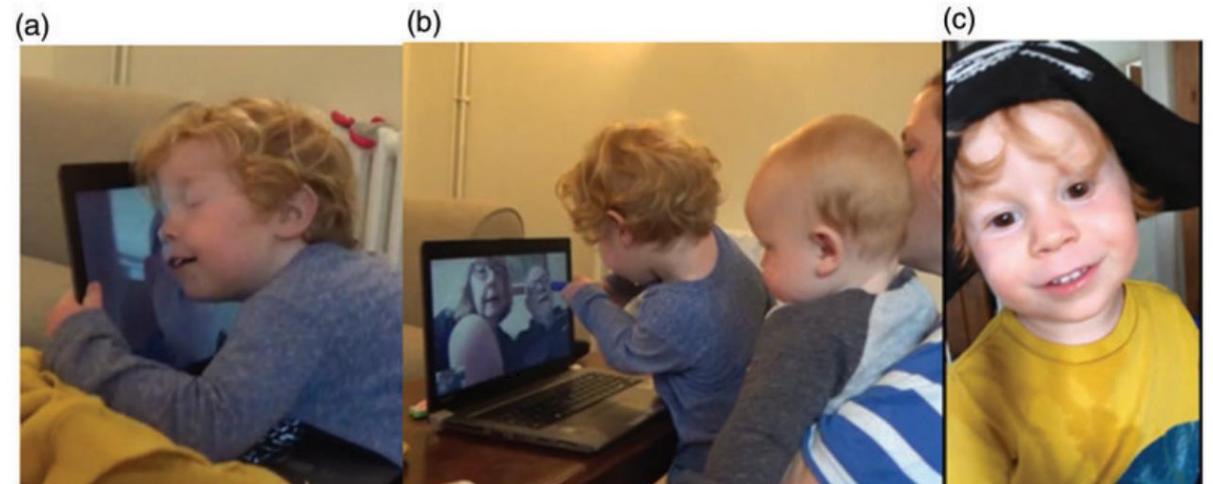
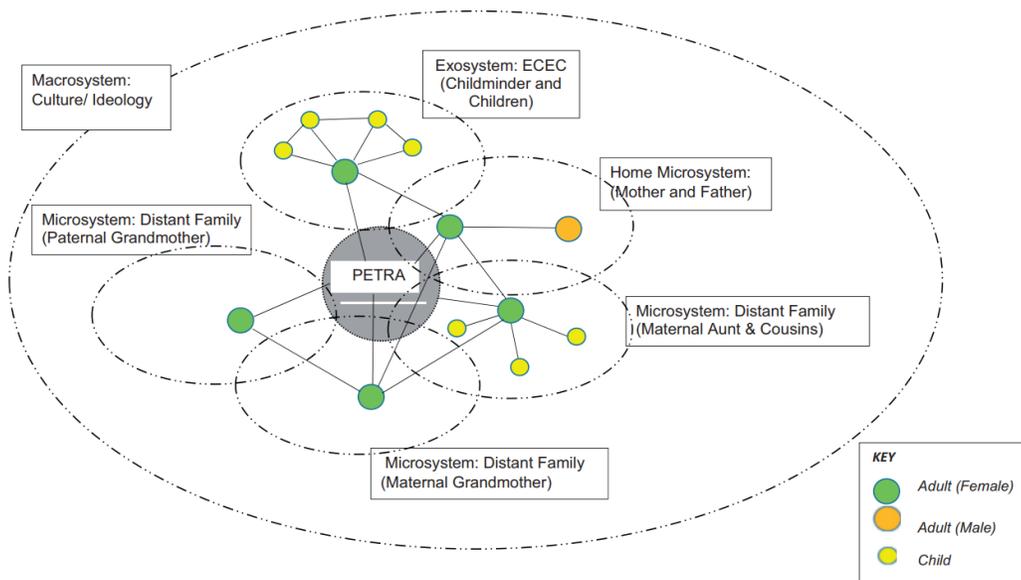


Figure 4. Charlie hugs his grandfather on Skype (a); 'shoots' him with a plastic toy (b) and sends a WhatsApp video message to his friend (c).

デジタル 子どもの目線、身体的動き等から 見ると、多様なネットワークのかかわりがある。

ペトラのネットワーク



チャーリーのネットワーク

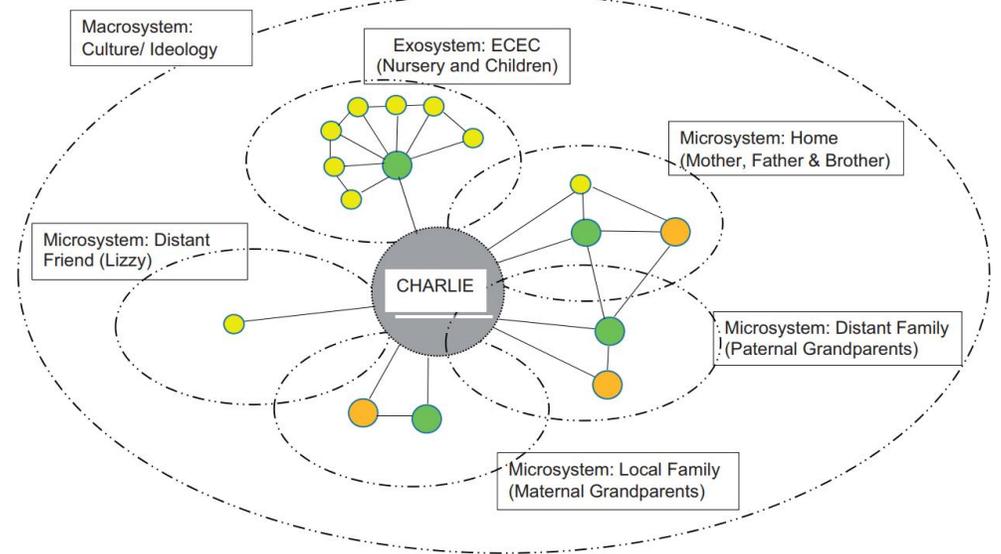


Figure 5. Diagrammatic representation of Charlie's HLE.

理論的な視座 1

エコシステムにおけるダイナミズムを捉える

○絵本を提供するという大人の視点で効果を捉えるだけではなく、子どもは主体としてどのようにそのメディアの世界を受け入れるのかという

観点からの研究の必要性

4 理論的な視点 2

○情報と知識の違い 知的な理解だけではなく、そこでの情動的な関係や、身を置く場、絵本を見る時のテンポや間の時間感覚、作品や人との関係性への視点から、バーチャルとリアル、デジタルと紙メディア等を考えた研究も必要では。

乳幼児期だからこそ考えたい。

SLOW PEDAGOGY、SLOW KNOWLEDGE

Orr(1996) Tishman (2018) Clark (2020)

ファーストフードとスローフードのように

○ゆっくり楽しむスローなかわり 身体での感覚、感性
場 ペース 他者との関係性という文脈のつながり

Clark,A.2020 Towards a listening ECEC system.

ゆっくりみること Slow lookingにより深く詳細を学ぶ
新鮮な目で見ると、視野を広げる

詳細に気づく、WELL-BEING (安心感,Mindfulness)

Tishman,S. 2018 Slow looking: The art of practice of Learning Through observation.

まとめにかえて

データに基づく研究から、これからどのような絵本・本環境を誰に向けてデザインするのが大切である。

ただしその時に、現代の流れを自明とせず、デジタル時代に問われる価値や哲学をもって、子どもを取り巻く環境を考えていきたい。

生まれた時から主体である子どもの読む権利を保障するのはどのようなことか、どのような社会を創っていくことなのかを、子どもの姿や多様な声から聴き取り、多層的なレイヤーやネットワークで捉え考えることが大切ではないか